

令和5年度 菅田中ブロック学校評価アンケート 報告  
(横浜市立菅田の丘小学校・羽沢小学校・菅田中学校)

I 令和5年度 菅田中ブロック学校評価アンケートの実施に当たって

菅田中ブロックでは、小中一貫教育ブロックにおける教育課程全体で育成を目指す資質・能力を『自分で考え、判断し、行動する力』とし、「9年間で育てる子ども像」と具体的取組を、次の通り設定しています。

小中一貫教育ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」

<習得した知識を活用して課題解決できる子>

<互いに表現し合い、自分の考えを深める子>

<自ら行動し、粘り強く取り組む子>

具体的取組

- 小中の連携を深め、授業参観を通して互いに授業力の向上を目指す
- 小中職員が一同に会する合同研修会の設定
- 「9年間で育てる子ども像」を見据えた教育課程の編成

文部科学省の「学校評価ガイドライン」では、学校評価の目的として、「各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること」を挙げています。小中一貫教育推進ブロックの目指す目標としての「9年間で育てる子ども像」の達成状況を評価するため、「9年間で育てる子ども像」から3校共通の質問項目を設定するとともに、ブロック学校評価から見えてきた課題を加え、児童生徒・保護者・教職員共通の質問項目として、一昨年度、次の6項目を設定しました。

- (1)あなた(お子さん・児童/生徒)は、学習したことを生かしながら、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。
- (2)あなた(お子さん・児童/生徒)は、自分の意見や考えを言葉で表現している。
- (3)あなた(お子さん・児童/生徒)は、他の人との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。
- (4)あなた(お子さん・児童/生徒)は、始めたことは、何でも最後までやり遂げようと頑張っている。
- (5)あなた(お子さん・児童/生徒)は、自分にはよいところがあると思っている。
- (6)あなた(お子さん・児童/生徒)は、自分の考えを積極的に表現して伝え、他者と関わり合いながら高め合っている。

これらの質問項目の設定の意図は次の通りです。

○小中一貫教育ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」から

- ・習得した知識を活用して課題解決できる子      ブロック学校評価アンケートの質問項目(1)
- ・互いに表現し合い、      ブロック学校評価アンケートの質問項目(2)
- ・自分の考えを深める子      ブロック学校評価アンケートの質問項目(3)
- ・自ら行動し、粘り強く取り組む子      ブロック学校評価アンケートの質問項目(4)

○令和2年度までの学校評価で見えてきた課題から

- ・自己肯定感      ブロック学校評価アンケートの質問項目(5)
- ・コミュニケーション力      ブロック学校評価アンケートの質問項目(6)

## II 令和5年度 菅田中ブロック学校評価アンケートの結果と考察

### 1 実施時期・方法・対象

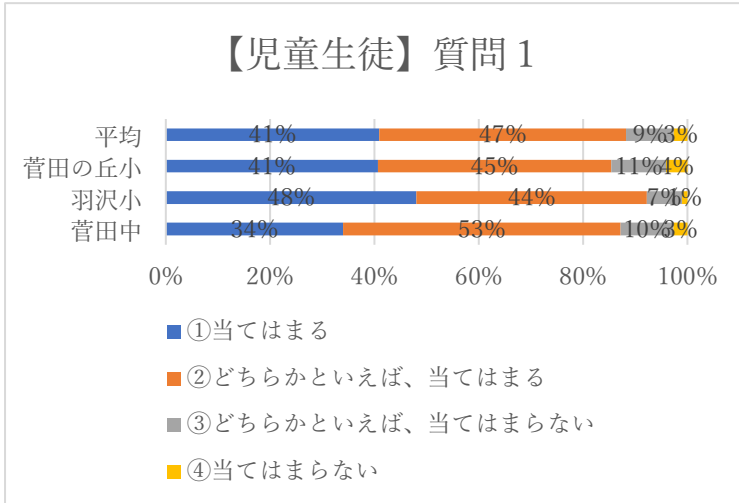
今年度のブロック評価アンケートも、昨年度同様、ブロック内の3校において、令和5年11月にGoogle フォーム等オンラインで、小中学校の児童・生徒、小中学校の保護者、小中学校の教諭を対象に実施しました。

### 2 各質問項目の結果と考察

アンケート実施後は、第3回みどりの大地協議会（令和5年12月18日・羽沢小学校）において、集計結果を示し、中間報告を行いました（菅田の丘小学校のデータは高学年児童のデータのみでした。本紙の結果にて訂正してご報告いたします。申し訳ございません。）。

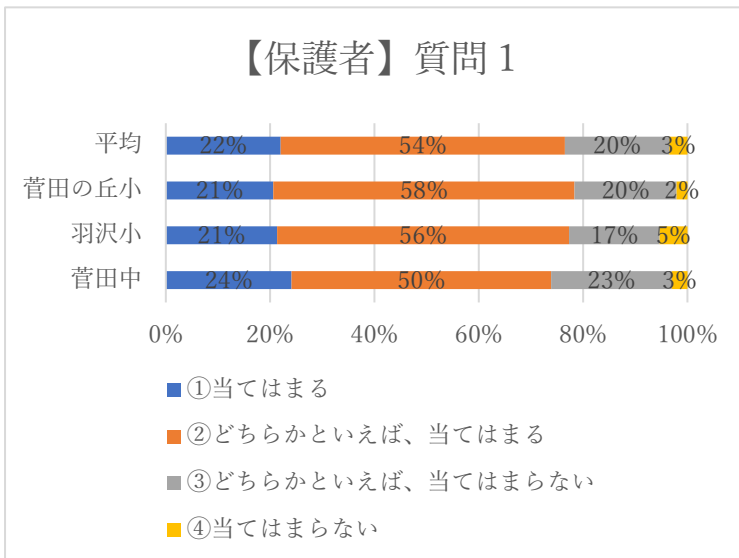
以下、各質問項目、3者それぞれの結果と考察を記します。

(1)あなた（お子さん・児童／生徒）は、学習したことを生かしながら、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。

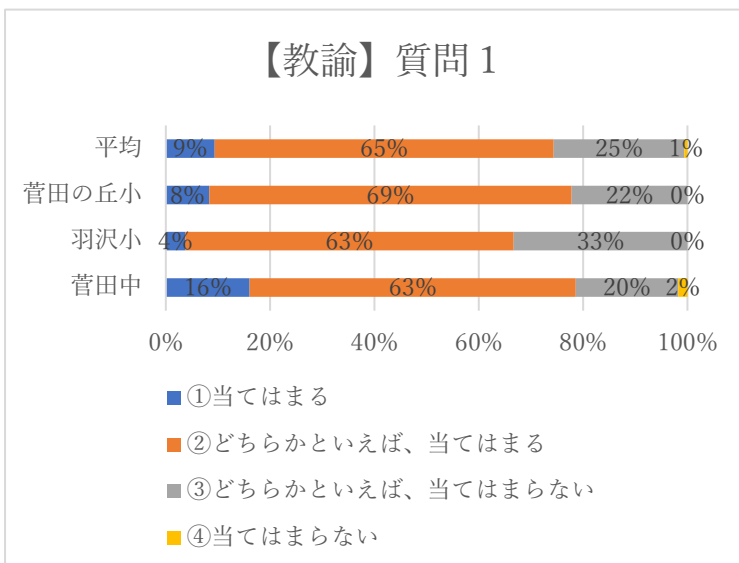


「児童／生徒」は88%（前年度87% + 1%）、「保護者」は76%（前年度72% + 4%）、「教諭」は74%（前年度74% ± 0%）が「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。

児童／生徒と保護者の評価の比較に関して、昨年度の考察に「昨年度同様、コロナ禍で学校に集まっていたく機会が少ないことによって保護者への説明が十分に行われていないことの影響が考えられる」とあった。

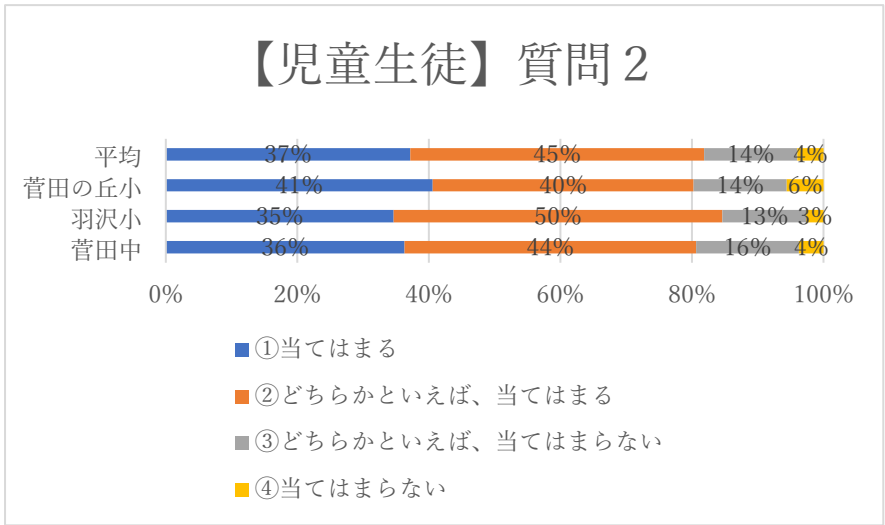


今年度は、5月、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類感染症に位置づけが変わり、各校、学校行事等が「コロナ前」に戻っていき、授業参観や各種説明会等が行われ、保護者の方へさまざまなお話しをする機会を確保できたことが、+4%の数値にあらわれているのではないかと考えられる。



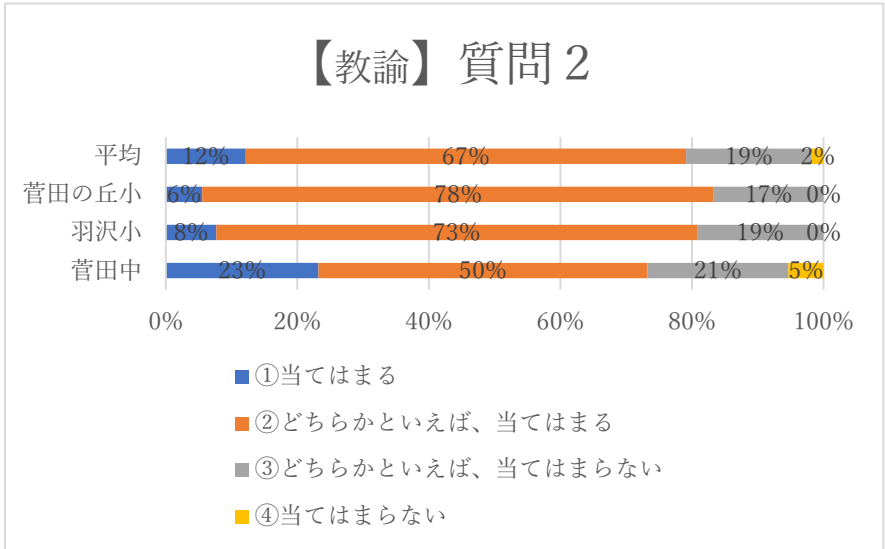
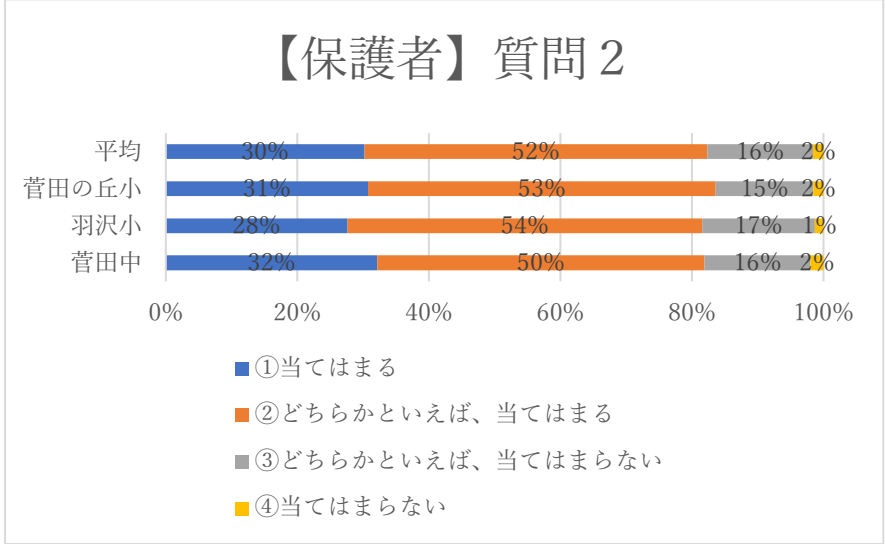
同様に、教諭の数値について、昨年度の考察に「経年比較で-8%」だったとある。今年度は昨年度と数値に変化がないことから、「9年間で育てる子ども像」にある「習得した知識を活用して課題解決できる子」を実現するための具体的取組の周知や見直しが効果的に行われたのではないかと考えられる。

(2)あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分の意見や考えを言葉で表現している。

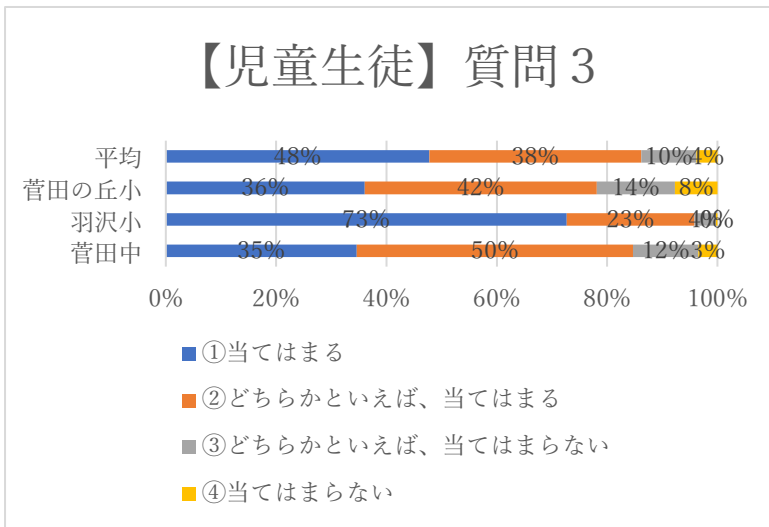


「児童／生徒」は82%（前年度84% - 2%）、「保護者」は82%（前年度87% - 5%）、「教諭」は79%（前年度74% + 5% 一昨年度は86%）が「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。

児童／生徒と保護者に関しては、昨年度と比較して数値を落とす結果となったが、教諭については+5%である。教諭が求める「自分の意見や考えを言葉で表現している」ことの評価基準の見直し、機会の創出、授業づくりを行った結果だと思われるが、それであれば児童／生徒と保護者の数値が減るのは辻褃が合わない。今年度の数値だけを見ると、子ども・保護者と教諭の差は3%とあまり大きくないが、これまでの推移から考えると疑問点が浮かび上がった。

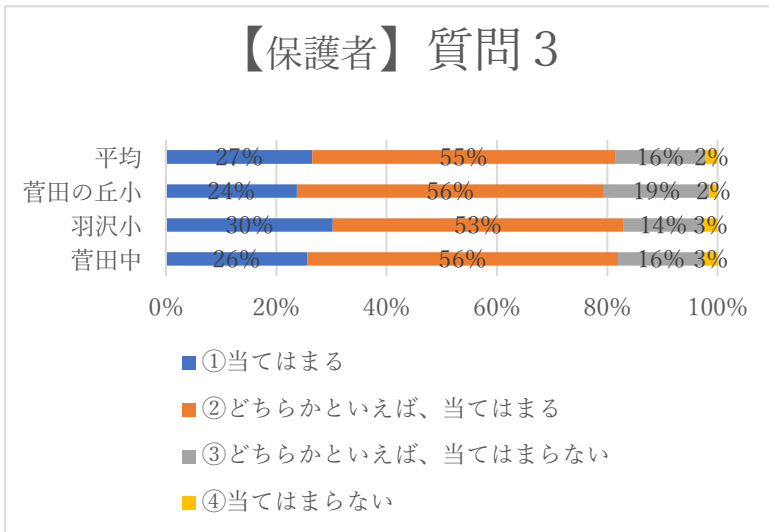


(3)あなた(お子さん・児童/生徒)は、他の人との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。



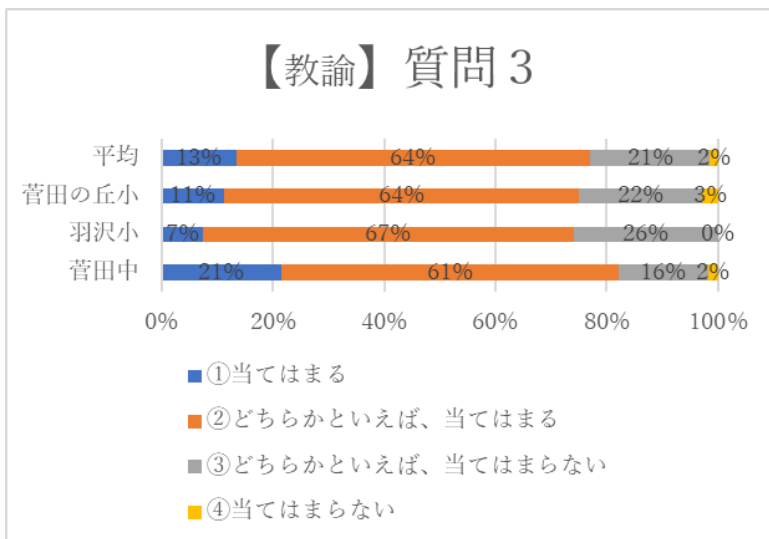
「児童/生徒」は86%（前年度84%+2%）、「保護者」は82%（前年度82%±0%）、「教諭」は77%（前年度81%-4%）が「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。

一昨年の「児童/生徒」は78%だったので、学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」にある「対話的な学び」の機会が、授業内で着実に確保されていることが推測され、子どもたちがその大切さを実感していると考えられる。



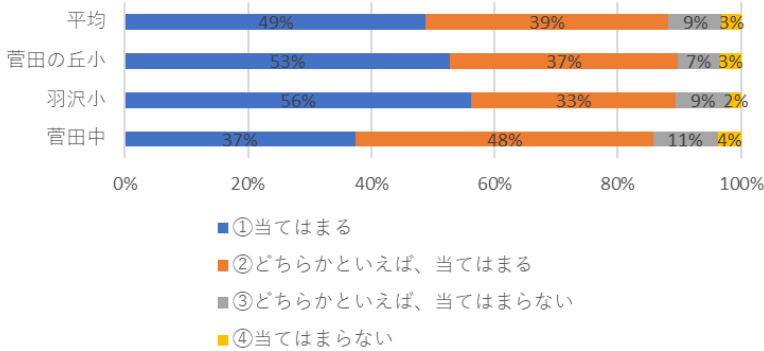
「保護者」は80%と数値に変動がなかったのは、「対話的な学び」について、授業内での活動に対して理解が浸透したという見方もできるのではないかと考えられる。

「教諭」が-4%と減少しているが、一昨年と同じ数値である。コロナ禍でまったく行えなかった対話的活動が、徐々に行えるようになってきた一昨年度は、コロナ禍で「0」から積み重ねた達成感があったが、昨年は真新しさを感じなかったのではないかと考えられる。中学校の授業だが、一昨年度と比べて、教諭の取組自体が減少したようには見受けられない。



(4)あなた（お子さん・児童／生徒）は、始めたことは、何でも最後までやり遂げようと頑張っている。

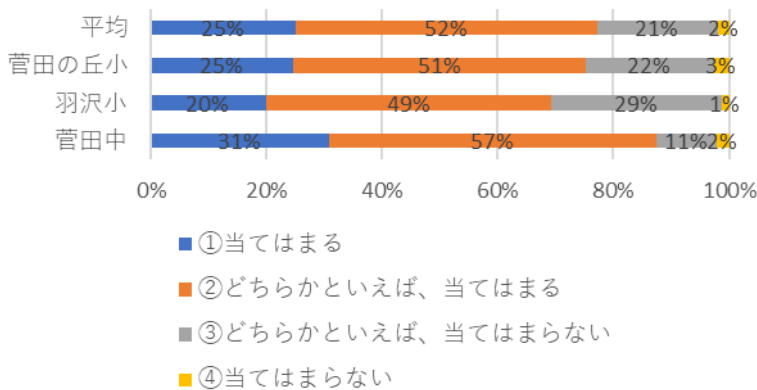
### 【児童生徒】 質問 4



「児童／生徒」は88%（前年度87% + 1%）、「保護者」は77%（前年度74% + 3%）、「教諭」は69%（前年度73% - 4%）が「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。

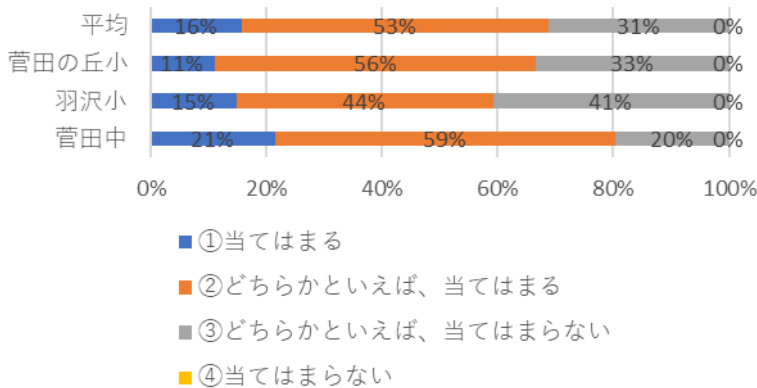
昨年の考察にも、「児童自身と教職員の「当てはまる」の回答には大きな差がある」、「教職員については、学校の中で、児童・生徒が苦手と捉えていることでも、最後までやり遂げてほしいという願いの裏返しとして捉えているため、低めの数値になっている可能性がある」、「保護者は、家庭と学校両面を考えて、中間的な数値を示したのでは」とある。

### 【保護者】 質問 4



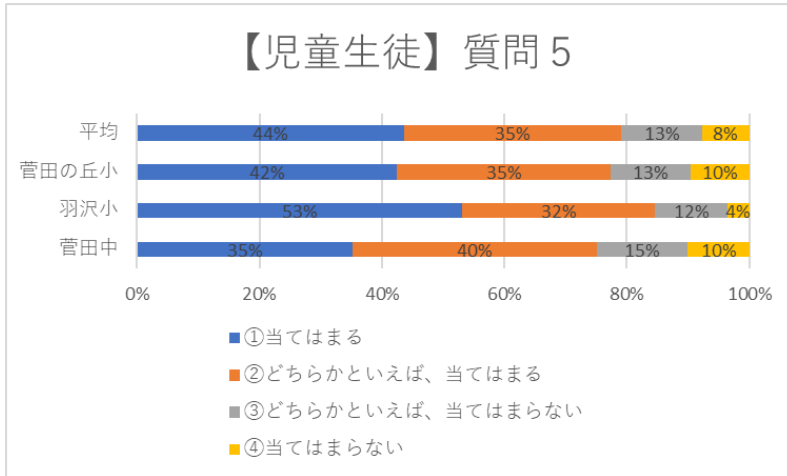
今年度は、子どもたちと教諭の捉えが更に広がる結果となった。質問項目が何に対してなのかが示されておらず、抽象的なため、子どもたちは達成しやすい好きなことや実施することが安易なことを想定して回答しているのかもしれない。学校における教育活動に対してどうなのかを問う質問項目にしなければ、実態が見えてこないのかもしれない。

### 【教諭】 質問 4



いずれにしても、子どもたちが自分で頑張っていると捉えているので、私たちはそれについては肯定・承認し、褒めて更なる向上に向けて支援していく必要がある。

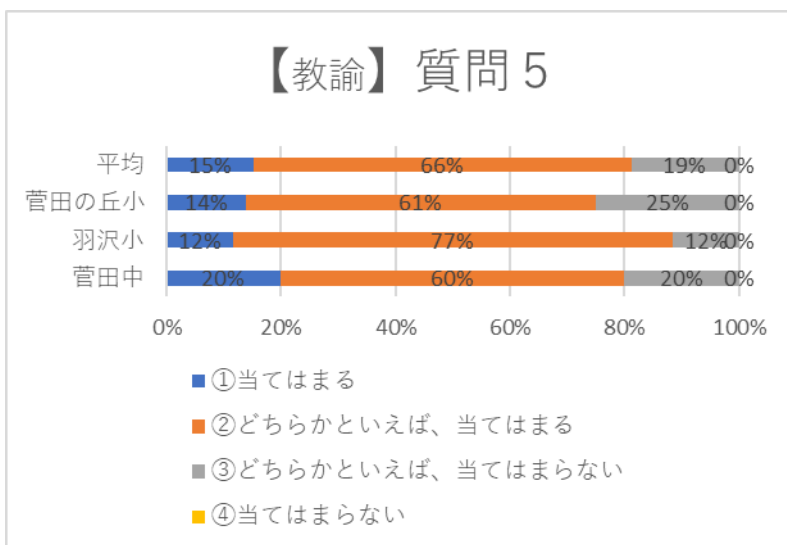
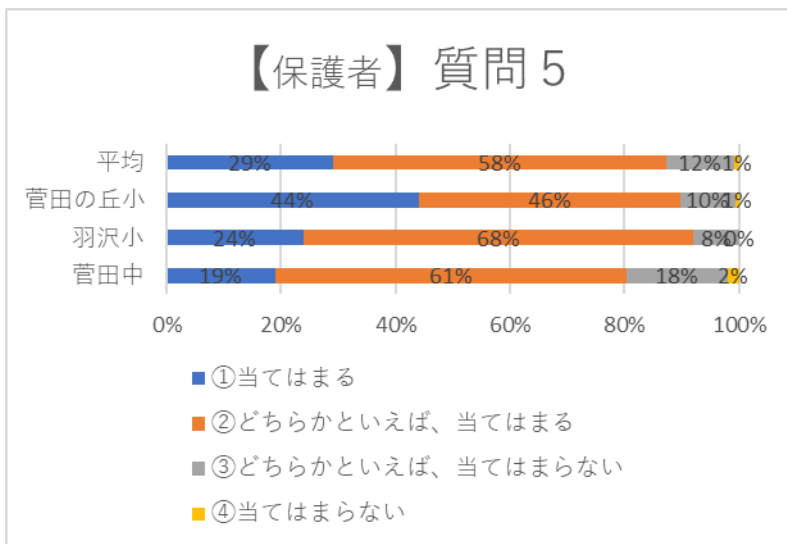
(5)あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分にはよいところがあると思っている。



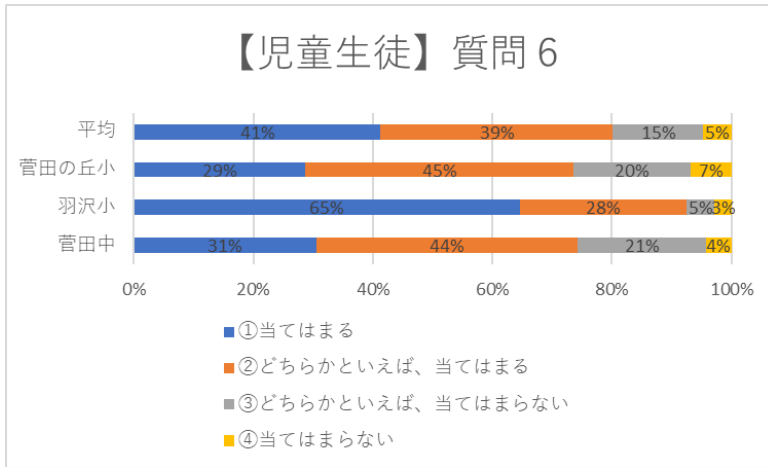
「児童／生徒」は79%（前年度83% - 4%）、「保護者」は87%（前年度78% + 9%）、「教諭」は81%（前年度70% + 11%）が「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。

保護者の数値が+9%、教諭は+11%と大きく上がっていることについて、質問1同様、保護者の方にご来校いただき、子どもたちの姿を見ていただく機会の増加と、そこでの教諭との接点でコミュニケーションを多く取ることができ、子どもたちのよさを伝える・共有することができたのではないかと考えている。

しかし、大人たちの満足感の向上とは逆に、子どもたちの捉えは減少している。自己肯定感、学習や習い事、部活動や友人関係作り等の取組に大きな影響がある。たくましく、しなやかに生きていく原動力である。子どもたちが自分のことを好きになり、自分のやっていることを肯定できるようになるにはどうしたらよいのか。私たちはこの結果を検証していかなければならない。

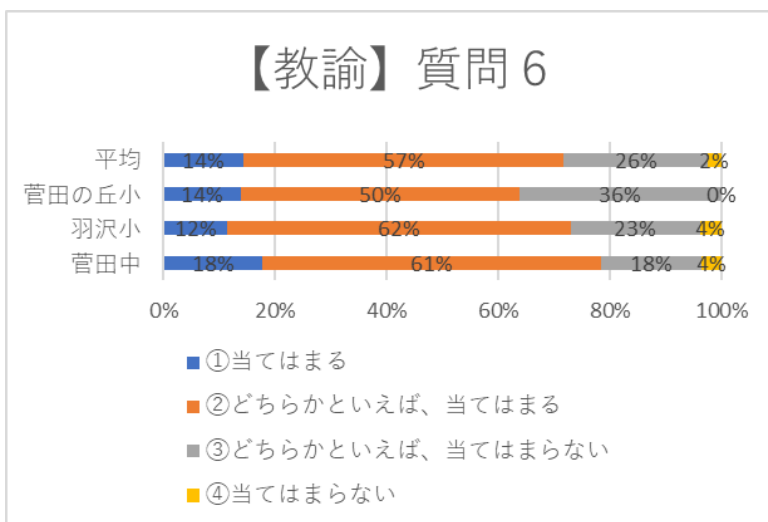
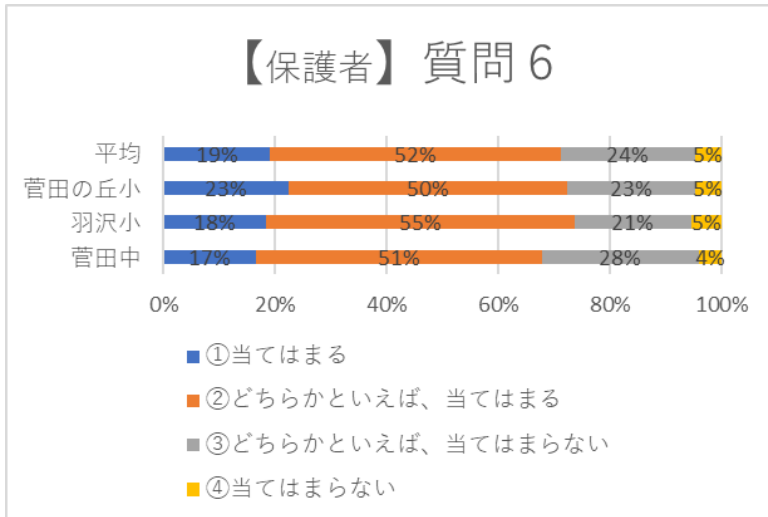


(6)あなた(お子さん・児童/生徒)は、自分の考えを積極的に表現して伝え、他者と関わり合いながら高め合っている。



「児童/生徒」は80%（前年度77%+3%）、「保護者」は81%（前年度65%+16%）、「教諭」は71%（前年度68%+3%）が「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。

質問3の内容より更に高め合っているかを問う質問6だが、設問中、唯一3者とも数値が上昇している。中でも保護者の回答は+16%と飛躍的に上昇している。昨年の考察に「保護者には、判断の難しい設問」とあるが、質問1、質問5と同様、保護者の方にご来校いただき、子どもたちの姿を見ていただく機会の増加と、そこでの教諭との接点でコミュニケーションを多く取ることに加えて、保護者間のコミュニケーション、保護者と子どもの友人たちとのコミュニケーションも復活したことも、「高め合っている」と感じる場面に遭遇することにつながったのではないかと推察される。





### 3まとめと次年度に向けて

質問1では「子ども（児童・生徒）と大人（保護者、教諭）」、質問3では「親子と教諭」、質問4では「子どもと大人」、質問5では「学校（子ども、教諭）と保護者」、質問6では「親子と教諭」に回答の乖離が見られました。

質問1と質問4では子どもの達成感以上に大人の期待が高く、質問3と質問6では親子の満足感以上に教諭がもっと頑張してほしいと期待、質問5では子どもと教諭以上に保護者の期待が高いと言えます。各項目について検証し、3者ともに満足のできる学校運営をブロック全体でしていくことが理想と言えます。

質問4について、学習面のことなのか、習い事・部活動のことなのか、聞きたいポイントを絞って実施する等、聞き方の修正を検討したいと思います。

学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取組とされています。

一昨年度、菅田中ブロックでは、ブロック学校評価を「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていく」機会と捉え、併設型小・中学校におけるカリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを円滑に廻すための学校評価という視点を明らかにし、3校における新しい教育課程に基づく教育活動に資することをねらいとしてブロック学校評価アンケートのあり方を見直しました。その結果、質問項目が6項目に絞られました。

昨年度と今年度についての経年変化や児童・生徒、保護者、教諭の結果比較から見えることや考えられることを記しました。

次年度に向けて、これまで大事にしてきた取組をしっかりと継承しつつ、更なる教育活動の充実を図り、できることをできるところから取り入れていきます。特に、令和7年度より「独自教科・自分づくり科」がスタートするので、今回の学校評価アンケートについてブロックでの丁寧な振り返りと、次年度の改善点を明らかにして共有すること、そして確実に実施することが必要だと考えています。3月に開催されるブロック全体会でこれらを進めていく予定です。

学校評価アンケートを通して3校の保護者の皆様からいただいたご意見、また、みどりの大地協議会の委員の皆様からいただくご意見を次年度に生かしていけるよう、教職員一同、ブロックで協力し合いながら、子どもたちと向き合い、質の高い教育が実現できるよう教育活動に取り組んでまいりたいと思います。

(菅田中学校 副校長 谷澤直人)